

令和3年度 文部科学省・熊本県教育委員会指定
令和3年度 玉名市教育委員会指定

人権教育研究指定校

研 究 主 題

『**自他を大切にし、
未来を切り拓く力を備えた生徒の育成**』

～自尊感情を高め、自他の人権を尊重できる生徒の育成を目指して～



〈学校スローガン〉

命を大事に 人を大事に 心を大事に 物を大事に

〒865-0005 熊本県玉名市玉名 900 番地

【TEL】 0968-72-2597 【FAX】 0968-72-2397

【URL】 <http://jh.higo.ed.jp/gyokuryo/>

【E-mail】 gyokuryoh-jh@tsubaki.higo.ed.jp

熊本県玉名市立玉陵中学校

【学校教育目標】

故郷を愛し、未来を切り拓く力を備えた児童・生徒の育成

【玉陵中人権教育の目標】

すべての教育活動を通して、部落差別をはじめ、あらゆる差別をなくし、みんなが安心して過ごせる学校を目指す生徒・集団を育てる

自尊感情の高まり

自他の人権の尊重

【研究主題】

自他を大切にし、未来を切り拓く力を備えた生徒の育成

～自尊感情を高め、自他の人権を尊重できる生徒の育成を目指して～

分かる授業

1分間スピーチ

人権教育を通じて育てたい
資質・能力の位置付け

小中連携

協働学習の充実

生徒会活動の
充実

ペア活動・班活動

人権集会

対話的な授業

生徒指導の充実

仮説1

自己理解や他者理解が
深まる授業づくり

仮説2

人権を大切にしたり行事等の
充実、言語環境や校内外の
環境整備

情報発信

関係機関・地域

学級経営

家庭

本校が考える自尊感情とは

自尊感情

…自己存在感 自己有用感 **自己肯定感** 自己効力感…

人権教育を通じて育てたい資質・能力

【「人権教育の指導方法等の在り方について(第三次とりまとめ)」から】

自分の人権を守り、他者の人権を守るための実践行動

自分の人権を守り、他者の人権を守ろうとする意識・意欲・態度

人権に関する知的理解

人権感覚

知識的側面

- ア 自由、責任、正義、平等、尊厳、権利、義務、相互依存性、連帯性等の概念への理解
- イ 人権の発展・人権侵害等に関する歴史や現状に関する知識
- ウ 憲法や関係する国内法及び「世界人権宣言」その他の人権関連の主要な条約や法令等に関する知識
- エ 自尊感情・自己開示・偏見など、人権課題の解決に必要な概念に関する知識
- オ 人権を支援し、擁護するために活動している国内外の機関等についての知識 等



価値的・態度的側面

- カ 人間の尊厳、自己価値及び他者の価値を感知する感覚
- キ 自己についての肯定的態度
- ク 自他の価値を尊重しようとする意欲や態度
- ケ 多様性に対する開かれた心と肯定的評価
- コ 正義、自由、平等などの実現という理想に向かって活動しようとする意欲や態度
- サ 人権侵害を受けている人々を支援しようとする意欲や態度
- シ 人権の観点から自己自身の行為に責任を負う意志や態度
- ス 社会の発達に主体的に関与しようとする意欲や態度 等

技能的側面

- セ 人間の尊厳の平等性を踏まえ、互いの相違を認め、受容できるための諸技能
- ソ 他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性
- タ 能動的な傾聴、適切な自己表現等を可能とするコミュニケーション技能
- チ 他の人と対等で豊かな関係を築くことのできる社会的技能
- ツ 人間関係のゆがみ、ステレオタイプ、偏見、差別を見きわめる技能
- テ 対立的問題を非暴力的で、双方にとってプラスとなるように解決する技能
- ト 複数の情報源から情報を収集・吟味・分析し、公平で均衡のとれた結論に到達する技能 等

全ての関係者の人権が尊重されている教育の場としての学校・学級

研究組織図

研究推進委員会

(校長、教頭、教務主任、研究主任、人権教育担当)

授業づくり部会

【仮説1】へのアプローチ

- 人権意識アンケートの実施
- 年間計画の見直し
- 人権教育を通じて育てたい資質・能力を位置付けた授業実践

環境づくり部会

【仮説2】へのアプローチ

- 意見交換を行う場の設定
- 生徒会活動の充実
- 人権を大切にしたい掲示
- 生徒主体の学校行事

「人権教育を通じて育てたい資質・能力」を位置付けた授業づくり

1. 年間計画 各単元に、「人権教育を通じて育てたい資質・能力」を設定しました。

第2学年 数学科 3章 関数を利用して問題を解決しよう[1次関数]

節	項	時数	学習内容	人権教育を通じて育てたい資質・能力
2 1次関数の性質と調べ方	① 1次関数の値の変化	1	<ul style="list-style-type: none"> ○1次関数の性質を調べてみよう <ul style="list-style-type: none"> •xの値が1増加した時のyの値の変化 •1次関数と比例のグラフを比べて共通点や違いを話し合うこと ○1次関数の値の変化にはどのような特徴があるか調べてみよう <ul style="list-style-type: none"> •変化の割合の意味 •1次関数の変化の割合を求めること 	【技能的側面タ】
	② 1次関数のグラフ	3	<ul style="list-style-type: none"> ○1次関数のグラフにはどのような特徴があるか調べてみよう <ul style="list-style-type: none"> •1次関数のグラフ •比例は1次関数の特別な場合であること •切片、傾きの意味 ○1次関数のグラフを、その特徴を基にかく方法を考えてみよう <ul style="list-style-type: none"> •切片と傾きから1次関数のグラフをかくこと 	

2. 学習構想案

学習構想案に、人権が尊重される授業づくりの視点を明記しました。

○自己存在感

○共感的人間関係

○自己選択・決定

	学習活動	人権が尊重される授業づくりの視点
課題把握／個人思考／協働学習／まとめ	1 比例のグラフのかき方を復習する。	<p>どのような力を (能動的な傾聴、適切な自己表現)</p>
	2 課題を把握し、見通しをもつ。	
	3	<p>○自他の考えを比較しながら発表を進めていくよう声かけをする。</p>
	4	
	5 グループ内で考えを発表する。	<p>○グループは4人程度で、司会、発表、記録、を決めて進めていくようにする。発表者には数学的な表現で説明することを意識させるようにする。</p>
	6 各グループの考えを発表する。	
	7	<p>どの場面(段階)で</p>
		<p>○聞いている側には、各グループからの発表を受け、自分たちのグループで出なかったいろいろな気づきや考えについて発言させるようにする。</p>

3. 授業実践例

第2学年 数学科 1次関数

(1)目標

比例のグラフと比較することを通して、1次関数のグラフの特徴を説明することができる。

(2)本時における人権教育を通じて育てたい資質・能力

能動的な傾聴、適切な自己表現等を可能とするコミュニケーション技能【技能的側面タ】

本時の学習



グループでの学び合い活動を通して、発表者が印象に残った意見等を友達の名前を挙げながら具体的に説明しました。

協働学習からまとめの場面にかけて、様々な表現で1次関数の特徴が述べられることが予想される。数学的でなくても聞き手にとって分かりやすい言葉で表現させることと併せて、数学的な用語を使う大切さ、個々によって言い換えられるそれぞれの表現の活動を評価させることで、適切な自己表現を可能とするコミュニケーション技能を育成する。

深まるような授業づくりを行えば、自尊感情が高まり、自他の人権を尊重できる生徒が育つであろう。

第1学年 英語科 Unit2 Our New Teacher

本時の学習

(1)目標

「その人がだれなのか」についてたずねたり、情報を適切に加えながら答えたりすることができる。

(2)本時における人権教育を通じて育てたい資質・能力

自己の価値を尊重しようとする意欲や態度

【価値的・態度的側面ク】

協働学習の場面で、ペア活動を多く取り入れ、生徒同士で支え合い、考えを出し合い、学び合う雰囲気を作ることで、互いの役割や責任を認め合う態度を育て、自他の価値を尊重しようとする生徒を育成する。



生徒が互いに考えを出し合う様子が教室中に広がりました。

第2学年 社会科 日本の諸地域「北海道地方」

本時の学習

(1)目標

北海道への興味・関心を高め、これから追究していく学習テーマを設定することができる。

(2)本時における人権教育を通じて育てたい資質・能力

自己についての肯定的態度【価値的・態度的側面キ】

協働学習の場面において他者の意見を参考にしながら自分の意見をまとめていく。その際、お互いの対話から共通点や相違点を見つけ、進んで考えを広げ深めていく過程を大切にすることで、自他の人権を尊重できる心を育てたい。また、自分が驚いたことや不思議に思ったことを次回の学習テーマに設定することで、自己についての肯定的態度を身に付ける機会とする。



意思表示できる場の設定を行いました。

第3学年 理科 生物の種類の多様性と進化

本時の学習

(1)目標

始祖鳥が爬虫類と鳥類の中間の生物であることを体の特徴と関連付けて推論し、まとめることができる。

(2)本時における人権教育を通じて育てたい資質・能力

複数の情報源から情報を収集・吟味・分析し、公平で均衡のとれた結論に到達する技能【技能的側面ト】

協働学習の場面において、始祖鳥が何類の生物なのかを、見た目や体のつくり、骨格など様々な角度から情報を収集し、それらを分析して科学的な根拠を基に判断できる技能を育てたい。そのために、まずは個人で課題に取り組む場面を設定し、課題解決への目的意識を持たせた上で班での探究活動につなげたい。さらに、そこで出た複数の意見を基に全体で考える場面を設定し、多様な考えから学ぶ大切さや、みんなの力で解決することの達成感を持たせる。



仲間の発表に対して身を寄せながら聞くなど、傾聴の姿がたくさん見られました。

【仮説2】人権を大切にした行事等の充実を図り、言語環境や校内外の環境整備

日常の活動の中で



小中合同あいさつ運動
【価値的・態度的側面コ】

地域の方からもあいさつと声かけをしていただき、生徒の励みになりました。



環境スクールボランティア
【価値的・態度的側面ス】

学校で育てた花を駅や病院に届ける「おもてなしフラワープロジェクト」により、地域貢献活動を実施しました。



1分間スピーチ
【価値的・態度的側面ク】

全校生徒が、発表者の考えを受け止め、学年を超えて返しの言葉を伝えました。

縦割り活動班で



無言清掃
【価値的・技能的側面コ】



歓迎遠足
【価値的・態度的側面ク】



元気タイム(昼休み球技大会)
【技能的側面チ】

令和3年度 玉陵中学校生徒会スローガン

SHARE ~分かち合い 心をつなぐ~

- S** Smile(笑顔)
→笑顔が絶えない学校を目指す
- H** Hard(困難)
→困難なこともみんなで分かち合い、助け合う
- A** Attitude(意見・態度)
→生徒議会や集会、授業での意見交換の場を増やす
- R** Respect(尊敬)
→一人一人の個性を尊重する
- E** Everything(全て)
→自分がシェアしたいことを考え、全員が行動する



学校行事の中で



文化祭の取組
【技能的側面テ】

いじめ問題や障がい者の人権など、毎年、創作劇を通して考えました。



体育大会の取組
【技能的側面チ】

ダンスや応援をはじめとした企画運営に生徒が主体的に参画し、創り上げました。



「ありがとうメッセージ」の取組
【価値的・態度的側面ク】

書かれた生徒の自尊感情だけでなく、書いた生徒の自尊感情も高まりました。

を行えば自尊感情が高まり、自他の人権を尊重できる生徒が育つであろう。

学校生活の中で



小中合同人権集会の取組 【技能的側面ツ】

各クラスの人権宣言を発表し、小学生と共に意見を出し合い、理解を深めました。



小中合同避難訓練の取組 【価値的・態度的側面コ】

中学生が小学生に寄り添い、安全に避難しました。



PTA 人権教育講演会の取組 【知識的側面イ】

同和問題(部落差別)についての正しい知識を身に付け、自分のこととして考える機会にしました。

環境整備の中で



花いっぱいの学校を目指して 【価値的・態度的側面ス】



整理整頓 【価値的・態度的側面コ】



「目指す姿」を全教室に掲示 【技能的側面チ】

生徒会活動の中で



ピンクシャツデーの取組 【知識的側面オ】

生徒たちからの発案でスタート。いじめ反対運動やLGBTへの理解を深める実践的な活動になりました。



人権を大切にしたい掲示の充実 【知識的側面ア、エ】

各クラスの人権宣言、人権啓発ポスター等を掲示。併せて、生徒の頑張りもモニターで表示しました。

各学年の取組の中で



1年生

ハンセン病回復者の話から学ぶ 【知識的側面オ】

偏見や差別を払しょくするために、まずは「正しく知る」学習の機会を設定しました。



2年生

金栗四三の功績を学んで発信 【価値的・態度的側面フ、サ】

①競技者②後進の育成③女性・障がい者スポーツの振興④地域スポーツの振興のテーマごとに調べ、発表しました。

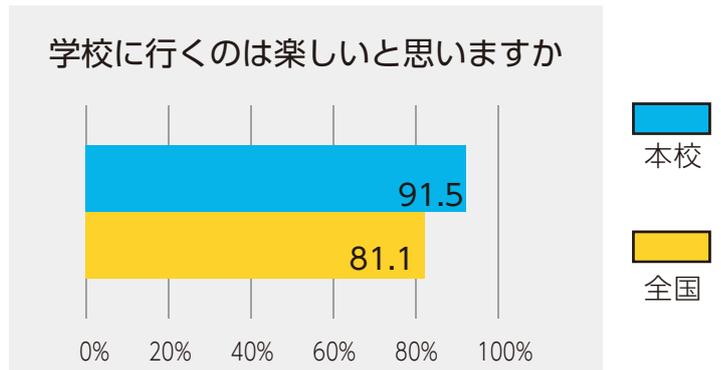
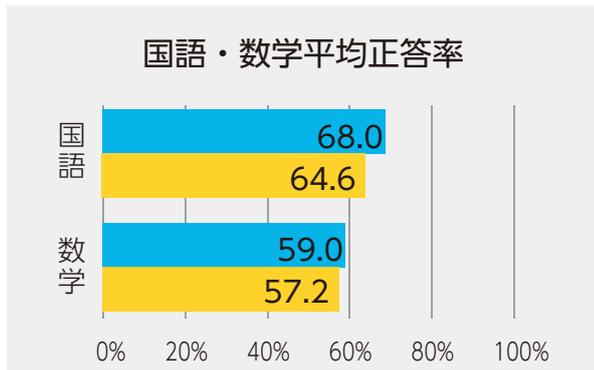


3年生

認知症サポーター養成講座 【価値的・態度的側面フ】

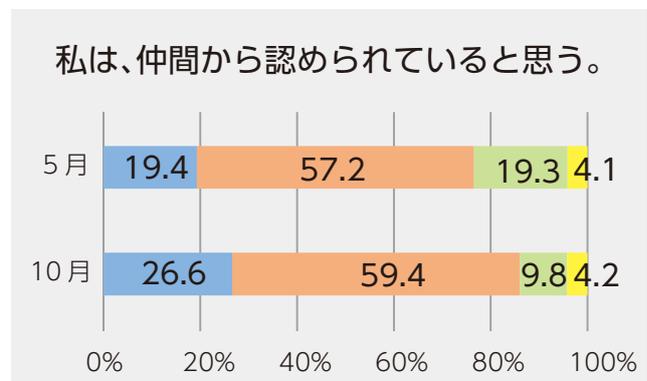
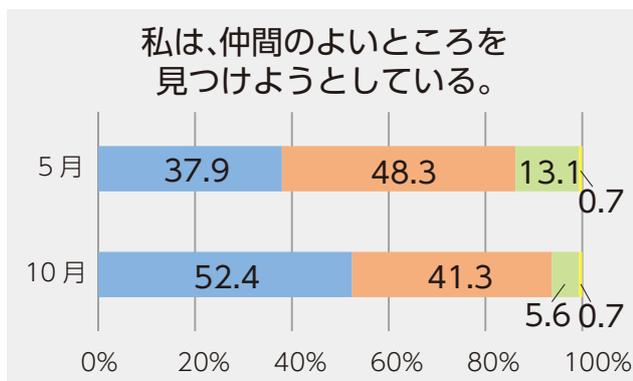
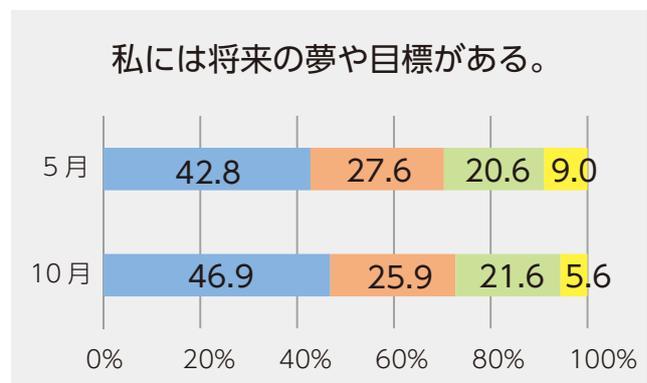
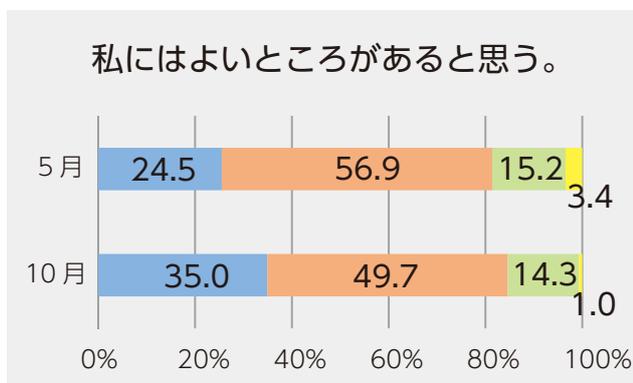
生徒たちが認知症を正しく理解し、本人やその家族を温かく見守る地域の応援者になれるよう講座を設定しました。

🔍 「全国学力・学習状況調査」から見た研究の検証 (令和3年5月、3年生対象に実施)



「当てはまる」及び「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合

🔍 「人権意識アンケート」から見た研究の検証 (令和3年5月、10月、全校生徒対象に実施)



■ 当てはまる ■ どちらかといえば当てはまらない
■ どちらかといえば当てはまる ■ 当てはまらない

研究成果と今後の方向性

これまでの取組により、自分に自信を持って行動する生徒や相手のことを考えた言動を心がける生徒が増えてきた。また、仲間の良いところに向け、積極的に評価をする姿が学校生活の多くの場面で見られるようになった。職員間においても、授業中や学校生活で気付いた生徒の様子について話すことが多くなった。それに伴い、生徒と職員との会話が増え、生徒をほめる機会が多くなってきた。このことは、すべての教育活動において「人権教育を通じて育てたい資質・能力」を意識し、全職員で目標とする生徒の育成に取り組んできた結果である。しかし、生徒の中には、自主的な行動ができなかったり、自分の思いを伝えることが苦手であったりするところがまだまだ見受けられる。今後も、自分も他の人も大切にするという取組を更に進め、「自信に満ちた生徒の笑顔」を目指した実践を積んでいきたい。